



棚田を彩る美しい光の帯

土谷棚田の火祭り

第13回土谷棚田の火祭り（福島おいどんがまちづくり会主催）が9月23日に開催されました。日本棚田百選にも選ばれている土谷棚田。市内外から集まった大勢の見物客は、棚田の美しい景観に3,000個の灯籠に灯りがともる幻想的な光景に酔いしれました。

また、24～29日の期間において棚田ほたと名付けられた6,000灯のLEDライトが棚田を2色の光の帯で彩りました。ライト設置は、祭り当日以外も楽しんでほしいと同会が中心となってボランティアの人たちの協力を受けて行ったもので、訪れた人たちは青やオレンジに色が変化の様子を写真に納めていました。



偉人と同じ景色を見つめて

顔出しパネル除幕式

坂本竜馬と勝海舟の顔出しパネルの除幕式が9月27日、道の駅 鷹ら島で行われ、市長や議長、関係者、鷹島小学校の4年生11人と一緒に完成を祝いました。

小説「竜馬がゆく」(司馬遼太郎著)第4巻に、坂本竜馬と勝海舟が、鷹ら島の目に見える日比水道を通ったとの記述があることから、鷹島を訪れた人に楽しんでもらいながら、歴史を学んでもらいたいと企画されたものです。パネルは、1枚が高さ約180^{センチ}、幅約90^{センチ}。2人の絵は鷹島町の画家である宮本安美さんが描きました。

坂本竜馬と勝海舟の気分になって美しい景色を楽しめる新たな記念撮影スポットが誕生しました。



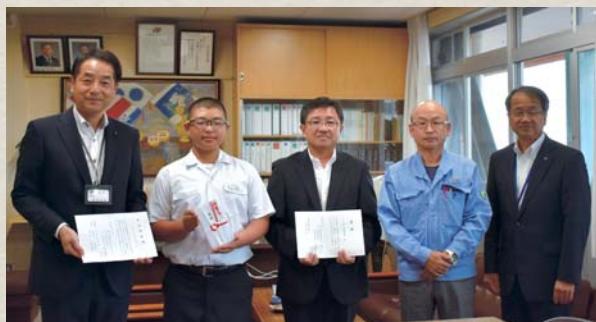
本で言葉と心をもっと豊かに

近江鍛工株式会社から寄附

近江鍛工株式会社（坂口康一取締役社長）が10月1日、御厨小学校、星鹿小学校、御厨中学校、青島小中学校に寄附を行いました。

同社は毎年、地域貢献の一環として学校図書の実のために地域内の小中学校に寄附を行っています。

この日、同社長崎工場の太田富穂副工場長が御厨中学校を訪れ、「子どもたちがもっと読書に親しめるよう読書環境の充実に役立ててほしい」とあいさつし、校長先生に寄附を手渡しました。生徒を代表して3年生の氏山友樹忠さんが「本は小さい頃からいつもそばにいて、いろんな世界に連れていってくれるもの。もっといろんな本と出会っていきたいです」と感謝の気持ちを述べました。



地元漁師さんとのふれあい

鷹島「海の市」

第11回鷹島「海の市」（鷹島地区活性化協議会主催）が9月22日、鷹島町の新松浦漁協漁業体験学習施設で開催されました。

鮮魚、手作り加工食品販売、魚のつかみ取り、鮮魚の詰め放題などが行われ、市内外から多くの買い物客や家族連れが訪れました。マグロの解体ショーや海鮮丼の販売、マグロの切り身購入者にソフトバンクホークスの公式スポンサーである双日ツナファーム鷹島株式会社から観戦チケットがプレゼントされるなど、おいしい、楽しいを満喫できる盛りだくさんの内容に会場はにぎわいました。

次回は、平成31年3月9日開催予定です。



楽しくエコについて学ぶ

こらぼらQでん「エコフェスタ in まつうら」

こらぼらQでん「エコフェスタ in まつうら」が9月22日、文化会館で開催されました。

九州電力長崎支社の地域貢献活動の一環で、市と協働企画した環境イベントとして、県内で初めて開催されました。

小学生を対象にしたこのイベントには、親子連れを中心に230人が参加し、間伐材を活用したマイ箸づくりや、ペットボトルを利用した飛行機づくりなど体験しました。電気の仕組みを学ぶブースや、私達のごみがどのように処理されているかをクイズで学ぶブースも設置され、自然の大切さ資源の有効活用について遊びながら学ぶイベントになりました。

参加者は、古紙（新聞紙、雑誌など）を持参し、ごみ減量化にも取り組みました。



みんなでまちをきれいに

シルバー人材センター清掃・除草作業

公益社団法人松浦市シルバー人材センター（村田政司理事長、会員240人）が、10月の全国シルバー人材センター事業協会の普及啓発促進月間に合わせて清掃・除草作業を行いました。

同センターでは社会貢献の一環と同センターの活動をPRするため、毎年市内8地区で公共施設などの清掃活動に取り組んでいます。

10月3日には、上志佐地区の会員約20人が落合観音と慰霊塔周辺の清掃、除草作業を行いました。日ごろの作業の成果がわかる見事な連携と手際の良さで、みんなが気持ちよく使えるようになりました。



国内外で活躍するガーデナーたちがつくる花と緑のアート

世界フラワー・ガーデンショー2018 ショーガーデン部門 ハウステンボス賞（最優秀賞）受賞

株式会社緑花園の深見誠一^{せいいち}さんの作品「花いっぱいPatio（パティオ）」が、ハウステンボス（佐世保市）で11月4日まで開催される「世界フラワー・ガーデンショー2018」ショーガーデン部門で最優秀賞を受賞しました。

この大会は、長崎市出身のガーデンデザイナー石原和幸氏の提案で始まり、今年で7回目を迎えます。ガーデン内を歩くことができたり、ライティングで昼と夜の表情を観ることができたりと、他の大会のショーガーデンとは違う楽しみ方ができるのが特徴です。

深見さんの作品は、白い壁面に色鮮やかな花の空間が広がり、アーチをくぐって小道を進みながらさまざまな花と緑の表情を楽しむことができます。

深見さんは、「今回の作品では、自社の強みでもある花や観葉植物、多肉植物をふんだんに使用して西洋風の庭に仕上げました。これからも庭づくりを通し、たくさんの人に驚きと感動を与えることができるよう頑張りたいと思います」と受賞の喜びを語りました。

